

本を選ぶ

高校図書館版

NO.34 2002年(平成14年)11月10日

●発行/ライブラリー・アド・サービス

本社 〒162-0822 東京都新宿区下宮比町2-28-517 TEL=03-3235-6168

ぶつく・えんど

未知の世界へ

本業は画家ですがここ10数年間に「鳥の巣研究者」と呼ばれるようにもなりました。なぜかという、10数年前東京から山の中へ引越したのが始まりでした。山や木が好きなので家の周りに木を植えたり山の手入れといった野良仕事をしていて偶然使い終わった古い鳥の巣を見つけたのです。細い茎や根でうまく丸く作ってあり、なんてかわいい形だろう、と捨てる気になれず机のそばに飾りました。そんな調子で三つ四つ…と増えていきましたが一つ一つ形や材料が違います。どの鳥がどうやってこの巣を作ったのだろう、と不思議に思うようになりました。本で調べればすぐわかるだろうと町の大きな本屋さんに行きました。が、ありません。鳥の図鑑や鳥の飼い方の本はあっても、鳥の巣の本はありません。「えーっ、うそだろう。なぜないのだ」と、人のごったがえす書店で途方に暮れるというか、暗い井戸の中を覗いたような感じになったのを覚えています。

この感じは昔々、20年以上も前の高校生のころ図書室が好きでよく行ったときに感じたものと同じです。絵が好きだったせいか小説を読むより、外国の本の知らない写真や図をただ見ているのが好きでした。たくさんの本の壁に囲まれ、試験や部活といった現実の高校生活とは違った未知

の世界を漠然と感じる嬉しさ。そんな未知の世界に向かって何かしたいというあこがれの気持ちが図書室で自分の中に養われたのではないのでしょうか。それと同じような気持ちが鳥の巣の本を探していて自分の中に沸きあがってきたのです。これだけたくさん本があるのにまだまだ未知の世界がある、それはいったいどんな世界なんだろう。だれもやっていないなら、自分がやってやろうじゃないかと。

それから、日夜、鳥の巣の収集を重ね(鳥はヒナが巣立ったらその巣は二度と使いません)、いろいろ調べ、とうとう鳥の巣の研究者になってしまったという訳です。

最近インターネットなどを利用してボタン一つで調べることができるそうで、それはそれで良いのですが、図書室にはそれとは違った魅力があると思います。単なる知識ではなく、膨大な本の量の中でちっぽけな自分を感じること。一冊一冊表紙や装丁はもちろん書体、紙質、臭いや肌ざわりまで違う本という一つの世界を、一冊一冊手に取りながら感じる楽しみ。それはただ知識を得るためだけでなく、未知なる世界、未知なる自分を探しているのではないのでしょうか。

高校生が図書室に行くのは、現実の高校生活にない自分以外の未知の世界を心のどこかに探しているからだと思うのです。そういう子にとって、図書室の司書という人は、先生でもないし、事務の人でもない。一見なにげなさそうであって未知の世界の扉を開ける鍵を持った人のような気がするのです。

(鈴木まもる：鳥の巣研究者)

思い切ってやってみました

—電算化、2か月の軌跡—

吉良 靖代

マンパワーの結集！

「夏休みの貸出しには、間に合わせたい」。今年の春先に電算化の話が決まったとき、漠然とこう思ったのがきっかけで、超特急の電算化作業を始めることになりました。

本校（生徒数950人）は、全校一斉の朝読書をしていることもあって、当分は開館のまま、作業に入ることになりました。そこで、図書委員会の中心メンバーを集め、電算化導入のことを説明し、協力を頼むと、「任せて、先生！」と、力強い返事が返ってきました。以後、図書委員たちが大活躍してくれたので、開館しながら作業を続けることができました。

今回の電算化は、まさに生徒・職員の協力によるマンパワー（人の力）の結集で成し遂げられたものだと思います。一人ひとりが持っている力を最大限出し切ったとき、不可能をも可能にしてしまうということを実体験した2か月でした。

電算化作業日程

- 2002/5/8 ソフトインストール
- 5/7～ 図書原簿からの入力開始
分担して入力し、フロッピーからソフトに取り込む。
- 5/17～ 書架本入力開始
バーコードリーダーでISBNを読み取り、書誌データから取り込む。
- 6/7 図書原簿、書架本入力終了
データの見直し
バーコード印刷、仕分け
- 6/17～ 閉館
バーコード貼付作業開始
- 6/27 バーコード貼付作業完了
バーコード貼り漏れ見直し
レイアウト変更。本の移動
- 7/11 開館！！

遡及は二本立てで

電算化の最初の難関が遡及ですが、本校の場合は、図書原簿からの入力と、書架本のISBNを読み取る現物入力の二本立てで行いました。一部のデータが二重になり、無駄な気もしますが、ソフトの機能を生かし、複数で入力できて、短期間で終了するには、よい方法だったと思います（重複番号は、書誌データの情報が優先されます）。

図書原簿の入力は、司書、図書分掌の先生方を始め、皆さんの協力で、分担して進めました。購入して十年以上経過している蔵書は、登録番号、書名、著者名、NDC等、検索に必要な最小限の項目に限ったので、かなり効率よく入力できました。この原簿からの遡及も一人でやっていたらと思うと、手伝って頂いて本当に感謝しています。司書でなければ出来ないこともあります。作業内容に応じて、外部人材を活用するというのもこれからの一つの方法かもしれません。

書架本からの遡及は、基本的にISBNがついている本をブックトラックに抜き出して、バーコードリーダーで読み取り、書誌データを入れていきました。その際、自校で必要な件名の追加、請求記号の確認、配架場所の入力などを行いました。今、振り返ってみて、件名はなるべく細かく、思いつく限り丁寧にしておくべきだったというのが反省です。生徒たちが検索するのを見ていると、実に様々な「コトバ」で検索をかけてきます。当然、出てほしい本が表示されないことがあり、そのつど、件名を追加してデータの修正をしています。見直しは大変です。

こうして、書架本からの入力は、ほとんど書誌データから落とすことができたため、司書一人で、1日に200～300冊のペースで進めることができました。そして、約1か月で1万8千冊の蔵書の遡及を終えました。

二実新進一歩

—オJまき版々半半アJ機異—

「普通」では、ムリ

第二の関門は、バーコード貼りです。目標は1週間で1万冊。いろいろな方にアドバイスをいただきましたが、夏休みでもない時期に普通のやり方では到底終わらない、ということだけは、はっきりしていました。

実験的に図書委員に貼ってもらった結果、「本棚にある本は、探しにくい」、「見つかった本とみつからない本の区別をバーコードに付けられないので、わかりにくい」との意見。そこで次のようなことを工夫してみました。

①探しやすいようにN D C ごとに書架から本を抜き出し、背表紙を上にして、机の上に並べる。

②普通紙にバーコードを印刷し、本物のバーコードシールと合わせて、クリップで留めて渡す。見つけた本には、チェックを付け、見分けやすくする。

③書架の状態を把握し、人の動きをイメージするため書架の配置図を作り、棚ごとにN D C を全て書き出した。

④バーコードの束を書棚の並びに照らし合わせ、5枚1組のセットに。それを基準に作業予定を書き込めるN D C ごとの細かいバーコード一覧表を作成。

⑤バーコードは、分類ごとにクリアファイルで保管。

これだけの準備をして、図書委員(約50人)を中心にバーコード貼りがスタートしました。一般の生徒や運動部の生徒が手伝いに来てくれたり、掃除当番も強力な戦力になってくれました。普段、あまり図書館に馴染みのない生徒でも、作業の目的と手順を説明すると、ゲーム感覚で競って本を探してくれました。

①の作業も面倒のようですが、大勢いるときは、視野が広がるので、友達同士で教えあったり、「こんな本もあつたんだ!」と掘り出し物を見つけたりと、メリットの方が大きかったと思います。

④の一覧表も急な手伝いの申し出があつたときも時間と人数を考えて、作業を割り当てるなど、

作業の進行状況をつかむのにとっても役に立ちました。毎日毎日、この進行表を見ては、バーコードを分け直すというように、その時間、作業に来てくれた人の力を最大限生かすにはどうしたらよいか、的確な指示が出せるように、方法や内容を考え続ける毎日でした。このときは、無我夢中でしたが、今思えば、この「段取りを組む」ことも、作業のポイントの一つになると思います。

バーコード貼りをやって気がついたこと

①最初は二人1組がよいと思ったが、仲のよいペア以外は、一人ずつの方が能率が上がる。興味のある分野なら一層ペースも速い。

②常に「探して→貼る」ではなく、状況に応じて変える。見つけた本は、バーコードの順番に積み重ね、一番上の本にバーコードを挟みこんでおく。そうすれば、違う人に交替しても戸惑わずに貼ることができる。

③本探し、バーコード貼り、人によって得意、不得意があるようなので、臨機応変に対処。

④以前の登録番号を残したので、1冊毎に番号の確認が必要で、その分大変だった。

⑤作業の意義、目的を理解して、やる気になれば、生徒の集中力はすごいものがある!

電算化を終えて

コンピュータでの貸し出しを始めて、3か月。

「遡及は大変だけど、完成したらその2倍も3倍もおつりがくるよ」と聞いていた言葉の意味が今ならよくわかります。貸出しも順調に伸び、事務処理が省力化できたことで、司書としての仕事の幅がさらに広がった気がします。

これから、電算化を考えている人に何か役に立つことがあるなら、という気持ちで今回書かせていただきました。電算化は気力と体力が必要ですが、やり方次第で何とかできるということが伝われば幸いです。

(きら やすよ：大分県立大分商業高校司書)

一步一步確実に

—異動して半年が過ぎました—

春が過ぎ、夏が過ぎ、秋が過ぎてもうすぐ木枯らしの季節です。ついこの間転動したばかりの私も、夏休みを越して長年勤めているような気分で仕事ができるようになりました。4月から二週間に一度の割合で発行し始めた「らいぶらりいんふおめーしょん」も生徒の間に定着し、最初は教室掲示一枚配布だったのですが、今は全校生徒に印刷して配っています。先日発売された『ハリーポッターと炎のゴブレット』（静山社）の先行予約を9月第一号の「いんふおめーしょん」で告知したところ、それを見て発売前に予約をかけた来た生徒が12人もいました。春日部東高校は二学期制をとっていて、10月からが新学期です。一学期（4月～9月まで）の貸出も7000冊近くになり、去年の貸出をぐ～んと越えました。着任して半年、今回は半年の間でどんなことを行ったかを振り返ってみたいと思います。

ティーンズ系の文庫が無い！

蔵書冊数が2万冊程度の学校から、原簿上3万5千冊近くある学校に転動し、まず驚いたのは書架がぎゅうぎゅうで古い本が多いということでした。創立二十六年めの学校と聞いていたので、新しい本が多いのかと思っていたら大違い。前任者の方も頑張って廃棄処理をしてくれたらしいのですが、絶対こんな本使わないよという本がゴロゴロ書架に出ていて、かつ、古～い文庫本の多さにびっくりしました。文庫・新書だけで、一万冊以上ありそうな雰囲気です。文庫本が多いのに、ティーンズ系の読み物がほとんどないのにまたびっくり。進学校の生徒は、富士見ファンタジア文庫や電撃文庫は読まないのかしらと思っていたら、後日、それも大違いだったと判明しました。

必需グッズも足りない！

さて、カウンターを見渡すとありそうでないものが結構ありました。春休み中はまず、足りないものをそろえて、新学期を迎えるにあたって必要

スタッフマニュアルをつくらう(10)

木下 通子

な資料を作ることに専念しました。

まず、購入したのが「カウンターの返却サイン」リクエスト用紙等、カウンターに常備しておく用紙を入れる「レターケース」「リクエストポスト」（これは100円均一のカゴを何個か買ってきて代用しました）「新刊展示机にかけるテーブルクロス」「返却のしおりに使う日付印」です。予算は潤沢にありそうだったので、100円均一を上手く利用しながら必要なものは注文しました。文房具も足りないものが多かったのですが、色上質紙や色画用紙、糊、セロテープなどの消耗品は事務室からできるだけもらってきて、書架表示などを作る作業をできる態勢を整えました。

次に作ったのが、リクエスト用紙と督促状です。あまりリクエスト制度が定着しておらず、かつ、督促も定期的に行っていなかったようなので、この機会に用紙を作って「リクエストを受け付けます」と大々的に宣伝することにしました。「今まではどうやってリクエストすれば良いのかわからなくてできなかった」という声を、後日生徒からも聞き、宣伝の大切さを改めて感じました。

支えてくれる書店・公共図書館！

春休み中にすませたかったのが、書店の開拓です。実はこの学校は、書籍は装備・データ付きで一つの書店から購入していました。ブックー処理済・マーク付きで納品されるので司書の作業は楽ですが、そうすると新刊も2か月遅れの納品になってしまいます。それでは新刊の意味がないので、思い切って取引書店も変えることにし、請求書で店頭買いをさせてくれる近くの書店を探しました。また、定期的に納品してくれて、リクエスト本などの入荷を急いでくれる書店も取引ができるようにしました。また、地元の市立図書館にごあいさつに行って、団体貸出での資料提供をお願いしました。

スクールアイリスというソフトでパソコンが導入されていて遡及入力も完了しており、貸出・返却・蔵書管理すべてがコンピュータ処理されているのですが、マークも本と一緒に購入していたので、自校で蔵書登録をするツールがありませんでした。ブックターを含めた装備も学校内ですることにしたので、データ入力の効率化を図るため、TRCDからのダウンロードができるようにしたいと思いました。ソフトの関係もあって、ダウンロードをできるようなるまで2か月ほどかかり、それまでは一件一件手入力をしていました。

お目見えのオリエンテーション

新入生のオリエンテーションの日程は、4月中旬に組んでくれていたので、それにあわせて新着図書案内第一号と、オリエンテーション資料として、(仮)図書館利用案内を作りました。それまでの利用案内には書架の配列とNDCの説明、開館時間と利用規程が盛り込まれていただけだったので、それに図書館からの常設サービスとして、新着図書案内を定期的に発行すること、リクエストにスピーディにこたえること、プライバシーを守る配慮がされていること、図書館の自由に関する宣言など、こちらから利用者に知らせたい項目を盛り込みました。

私自身もどんな本があるのかまだ把握できていなかったし、新着図書コーナーは図書館入り口に作ったものの館内のレイアウトも気に入らないところがあったので、今年の新入生のオリエンテーションでは、「図書館はみなさんの要望にあわせてどんどん変身していくので、ぜひ、本のリクエストだけでなく、ここをこうしてくださいという要求を出してください」と呼びかけることに力を入れました。

前任校から引き続きのことですが、日常業務として気をつけていたのが「リクエスト・レファレンスには素早く応える」(必ず利用者に結果を伝える)「督促状をこまめにだす」「利用者に声をかける」ことです。カウンターを通

して、これを繰り返していくうちに、だんだん顔見知りが増えてきて、「ああしてほしい」「こうしてほしい」という声が生徒からもあがってくるようになりました。

大がかりな変更は夏休みに

夏休みになったらやろうと思っていたのが、開架書架の本を書庫へしまう作業と、図書館のレイアウトの大幅変更です。もともと図書部会も時間割には組み込まれていたのですが、議題がある時しか開かないという状況だったので、特に議題がないときでもこちらから議題を見つけて定期的に集まっていただくように意識して、蔵書整理の計画を立てていきました。

4月は助走、5、6月で生徒の顔が少しはつきりしてきて図書委員とのコミュニケーションも取れるようになり、リクエストの回転も良くなってきて、いよいよ夏休みとっていたら、頭にくることがありました。冷房設備のある施設を保護者面談の会場にするので、保護者面談期間中図書館を閉館するように学校側から言われたのです。日程をみると保護者面談期間は夏休みに入る前の一週間。図書館にとってはいちばんのかきいれどきで、かつ、生徒も半日授業でゆったりとできる時です。管理職に直談判したり、図書部の先生から働きかけてもらったりもしたのですが、図書館が意識されていない学校で、こちら側の言い分が通るわけがなく、結局その一週間の午後は閉館することになりました。夏休み前に図書委員に協力してもらって書庫へ本をしまう作業とレイアウト変更の作業をしようと思っていた私は、どう日程を組んだらいいか途方に迷いました。

図書館が閉館になった一週間で、私の方は夏休みの課題本の資料集めをすることにし、近隣の学校を車で回って本を借りてきました。前任校では夏休みの課題本を図書館が準備するというのは当たり前のことだったので、先生方も7月に入ったらこちらに相談にこられたり、プリントを渡されたりというのが当たり前でした。

一步一步確実に

でも、今度は課題が出るのもギリギリで、かつ図書館に連絡がくるというシステムもなかったので、夏休みの書架整理の連絡とあわせて、職員会議で「課題を出す先生はぜひ図書館にご連絡ください」と呼びかけました。その呼びかけに応えて、声をかけて下さる先生がいたのです。図書館は面談会場になっていても司書室は使えたので、終業式前に本が貸し出せるように準備ができました。この期間に書架移動の作業をしていたらきっと課題本を集めて、パソコンに入力して、利用者に自由に閲覧してもらえるようにできなかったと思います。

夏休みに入ったら生徒は学校に来ないから、書架移動を手伝ってもらうのは無理だろうと思っていたら大違い。この学校はバリバリの進学校なので7月中は進学補習があって、一・二年生は毎日学校で授業を受けるのです。受験体制に入っている三年生に作業を頼むのは無理なので、一・二年生の図書委員に終業式の日から一週間かけて都合のいい日を二日選んでもらって、手伝いにきてもらうことにしました。

作業は、まず、開架書架に出ているたぶん生徒が常時使わないであろう本を書庫にしまつところから始めました。書庫は意外と余裕があったので、助かりました。たとえば、埼玉県史や春日部市史、それから文学系の個人全集が全部一般書架に混在して並んでいて、それが幅を利かせていたのです。私の性格からいっても、思いきって廃棄したい本が山のようにあったのですが、来た早々でかつ廃棄基準もない中で、すぐ廃棄というのできなかったので、シリーズもので古〜い本を含めて、3000冊近くの本を書庫にしまいました。最初に書きましたが、書架はぎゅうぎゅうで床置きになっている本もあるほどでした。そこで、空いたスペースに分類毎に本をずらしていく作業を進めました。

レイアウトの変更も小刻みに

本をずらすのと同時並行に行つたのが、レイアウトの変更です。実は、夏休みに入る前にも一回、簡単なレイアウトの変更を行っていました。

この学校は、文庫本も「文庫本」というコーナーを作って一般書架にぎゅうぎゅうに詰め込んでいたので、6月頃に新しく買い始めたファンタジー系の文庫本を見やすく置くために書店さんが捨てる予定だった文庫架をもらってきて、別置したりしていたのです。とにかく、文庫は低書架に別置したいと考えていたので、書庫にしまわれていた廃棄予定だった文庫架をひっぱりだしたりしました。

事務室からは、「今年度の備品費で書架を一本更新することになっているんだけど、木下さんが他のものを買いたかつたら同じ金額で変更してもいいよ」と言われていました。確かに一般書架は、スチールむき出して見た目も悪く、かつ重さに耐えられずかなりゆがんでいたもので、書架を更新するのもいいかなと思ったのですが、今年度は雑誌架を更新することにしました。それまでの配置では雑誌架は図書館の入り口にあり、かつ、よくある背の高い納骨式(?)のタイプで、雑誌を置く板がとれているものもあったのです。ブラウジングコーナーを作って、雑誌はソファアーにでも座ってゆっくり眺めるのがいいと思っていたので、新しいタイプの雑誌架を買うことにしました。

雑誌架を更新するのとあわせて、事務室に団体の図書費で、カラーボックスを5個と、ソファアー代わりになるスツールを3つ購入したいと申請しました。図書費で買うんだつたらいいよと事務室からは言われたので、それからどこで買うのが安いかしらと探して回り、カラーボックスは一つ1330円で(広告の品!) スツールは一脚5000円でゲットしました。本当は、ソファアーがほしかったのですが、何件リサイクルショップを回っても手頃な値段のソファアーが見つからず、結局安売りの家具店でソファアーの横に荷物置きとして使うスツールを買うことにしたのです。最初は座りにくいなと思ったのですが、材質はソファアーと同じだし、コンパクトで移動も簡単なので、生徒にも好評でした。今までなかった観葉植物も置くことにしました。業務主事さんをお願いして、観葉植物をおく台もゲットし、ブラウジングコーナーには緑のア

クセントをつけることができました。

レイアウトを変更するにあたっては、何人かの方からアドバイスを受けていました。かつ、同じ作りの学校に見学に行つて写真を撮らせてもらい、図面上で考える参考にしました。

今回は、次のような変更をしました。

①カウンター回りを広く取つて、カウンターの中に作業できる机を入れる。

②生徒の検索用のコンピュータが4台あるけれど配置の問題で一台がものすごく使いにくい状態だったので、全部のパソコンを使いやすくするた

めに並べ替えた。

③入り口から入つてすぐのところに新着図書コーナーと、展示コーナー（テーマや行事にあわせた本を並べられる机）の机を設置した。

④新刊情報を調べられる机を設置して出版社ごとのカタログを置き、リクエストする時に便利なツールを集めた。

⑤思い切って古い書架を四つ捨てた。

⑥閲覧機の並びを変えて、入り口付近にあった一人用の勉強机を静かな場所に移動した。

（きのした みちこ：埼玉県立春日部東高校司書）

DMかたろぐ

こんな本を待っていた！★日刊工業新聞第16回「技術・科学図書文化賞」受賞！！

虚数の情緒

吉田 武（よしだ・たけし）著
工学博士（数理工学専攻）

この本は人類文化の全体的把握を目指した科目分類に拘らない「独習書」である。歴史、文化、科学など多くの分野が、虚数を軸に悠々たる筆致で書かれている。また人生の「参考書」ともなるよう、様々な分野の天才達を縦横に配した。漢字、電卓の積極活用なども他に例の無い独特のものである。

A5判・上製本・1032頁/定価（本体4300円＋税）
ISBN 4-486-01485-5 C3041 分野/自然科学（数学）

東海大学出版会

〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷2-28-4
TEL:03-5478-0891 FAX:03-5478-0870

URL <http://www.press.tokai.ac.jp/> E-mail:webmaster@press.tokai.ac.jp

高校生のジェンダーとセクシュアリティ

自己決定による新しい共生社会のために
須藤 廣 編著 四六判/並製/216頁 1500円

性に関する自己決定を現代の高校生はどう捉えているのか。就業意識や男女交際、親子関係、トランスジェンダーなどについて、国際比較も交えて、日本の若者のジェンダー、セックス観を描き出した、人権学習に最適な一冊。

高校生が考える「少年法」

アムネスティ・インターナショナル日本 編
四六判/並製/228頁 1800円

2011年4月に少年法は「改正」され厳罰化の方向に転じた。本書は、少年法の当事者である高校生たちが「少年非行と少年法」をテーマにして現地調査を行い、自らの視点で少年法を、そしてその「改正」の意義を見つめ直す過程をたどった、ひと夏の記録である。

明石書店 〒113-0034 東京都文京区湯島2-14-11 <価格が本体価格>
TEL:03-5818-1171 FAX:03-5818-1174 ※図書目録呈
<http://www.akashi.co.jp> 振替00100-7-24505

かもがわ出版
<http://www.kamogawa.co.jp>

37万人の 禁煙教育からうまれた 子供たちに タバコ の 真実を

CD-ROM付き
平間敬文 著

小・中・高校生を対象にした37万人の禁煙教育から生まれたマニュアル本。学校、地域、家庭でタバコの真実を語り、禁煙世代を育もう。
1900円



〒602-8119 京都市上京区堀川通出水西入
TEL075 (432) 2868 FAX075 (432) 2869 【価格税別】

装幀 安野光雅・A5判・上製・各巻平均五五〇頁
全巻揃本体四八、〇〇〇円＋税

①小説／②詩／③短歌／④俳句・川柳／⑤児童作品
⑥記録・随筆／⑦評論・評伝／⑧詩／⑨短歌／⑩俳句・川柳／⑪児童作品

編集委員
大岡 信・大谷藤郎・加賀乙彦・鶴見俊輔
推薦
伊藤文男・笹 雄二・佐川 修・篠 弘・
瀬戸内寂聴・谷川俊太郎・筑紫哲也・山下道輔

ハンセン病文学全集
第1期
全10巻

日本文学史の空白を埋める画期的な全集
現在、圧倒的な反響のもと刊行中！

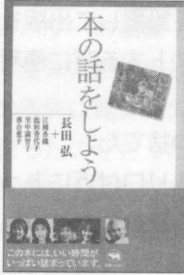
株式会社
皓星社

〒166-0004 東京都杉並区阿佐谷南1-14-5
TEL 03-5306-2088 FAX 03-5306-4125
<http://www.libro-koseisha.co.jp/>
E-mail:info@libro-koseisha.co.jp

本の話をしよう

長田弘+

江國香織・池田香代子
里中満智子・落合恵子



絵本を読もう。童話を読もう。物語を読もう。マンガを読もう。文字を書こう。言葉を読もう。そして、本を贈ろう。本という不思議に魅せられた詩人が、4人の女性作家とともに語り尽くす本の魅惑。本の秘密。読書は素敵だ。本は人と人をつなぐのだ。みんなで、本の話をしよう。
◆四六判/160頁/1260円(税込)

晶文社

〒101-0021 東京都千代田区外神田2-1-12
電話 03(3255)4501
<http://www.shobunsha.co.jp/>

地球環境ハングド 第2版

不破敬一郎・森田昌敏編著 本体35000円(税別)

日本語表現・文型事典

小池清治ほか3名編 本体15000円(税別)

和漢薬の事典

高山医薬大和漢薬研究所編 本体15000円(税別)

栄養・生化学辞典

野口 忠編著 本体23000円(税別)

フォックス食品・栄養学辞典

五十嵐 脩監訳 本体8400円(税別)

総合図書目録03 I あります。ご請求下さい。

朝倉書店

東京都新宿区新小川町6-29
〒162-8707 ☎03-3260-7631

限りなく広がる知識の世界 辞典600点突破!

続日本古墳大辞典

大塚初重・小林三郎編 正編から10余年間に調査された古墳、正編に収録されて再調査したもの、横穴墓、豪族居館と集落、窯跡など1800項目、950図版を収録した資料集成。B5判 530頁 本体15,000円



日本語方言辞書 別巻

—全国方言会話話集成—
藤原与一著 全3巻完結後別巻として全国各地の方言会話話を地域別に分け、実例をあげて詳細に紹介した。菊判 704頁 本体19,000円



東京堂出版

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-7

日本の時代史 全30巻

いま21世紀の新しい「日本史」が誕生する!

全冊書下ろし

毎月1冊巻数順刊行

〔編集委員〕井上 勲 高埜利彦
石上英一 五味文彦 渡辺 治
各三二〇〇円 『内容見本』送呈

高校図書館必備
〈古代編〉6冊完結

- 1 倭国誕生
- 2 倭国と東アジア
- 3 倭国から日本へ
- 4 律令国家と天平文化
- 5 平安京
- 6 摂関政治と王朝文化



税別価格
東京都文京区本郷七丁目一八
電話〇三―三八―三一九一五

吉川弘文館
A5判・平均三六〇頁

2002年10月刊行開始!

野坂昭如リターンズ

return of Akiyuki Nosaka
全4巻

四六変型・上製函入・平均500頁(付葉)
定価:本体各3000円+税

60年代末から70年代にかけて書かれた
長篇・エッセイを全4巻に集成!

- 1 真夜中のマリア・てろてろ 4-336-04451-1
- 2 エロトピア (イラスト=山藤章二) 4-336-04452-X
- 3 騒動師たち・水虫魂 4-336-04453-8
- 4 一九四五・夏・神戸 4-336-04454-6

国書刊行会

〒174-0056 板橋区志村1-13-15 (税別価)
☎03-5970-7421 FAX 03-5970-7427

- ### シリーズNPO(全8巻)
- 1 NPOの世界 山内直人編著 (近刊)
 - 2 NPOとボランティア 山早瀬中尚輝編著 (近刊)
 - 3 NPOと福祉 田山尚啓編著 (近刊)
 - 4 NPOと事業 田尾雅夫編著 (近刊)
 - 5 NPOと法・行政 新雨山本 山本啓 編著 (近刊)
 - 6 NPOと情報 山出口正之編著 (近刊)
 - 7 NPOと環境 山本啓 編著 (近刊)
 - 8 NPOと国際協力 佐藤幸男編著 (近刊)
- バレット
只今進呈中

ミネルヴァ書房

京都市山科区日ノ岡堤谷町1
TEL 075-581-0296 ※価格税別